

❖ 外部卓話

宇都宮ペットクリニック
院長・獣医師 浅井 洋子 様



講演題名 ペットの抱える現代病・長生きの秘訣1, 2, 3

大切な家族の一員として私たちの生活を豊かなものにしてくれるペットは、今どのような病気を抱えているかご存知でしょうか。実は人間と同じように、死亡原因の第1位は「がん」です。第2、3位として心臓病や腎臓病などの循環器という順になります。「がん」は何よりも早期発見・早期治療が大切ですが、普段の生活の中で早い段階で「がん」を発見し治療を開始するのは実際にはなかなか難しいことでもあります。

それでは、毎日の生活において気をつける点、長生きの秘訣1、2、3をご紹介します。

1 ベスト体重を意識しましょう。

かかりつけのドクターに現在の体格をチェックしてもらい、最適な体重をキープしましょう。コロコロしてかわいい！と思っても糖尿病の一手手前かもしれません。また肥満は「がん」のリスクを増加させることが分かっています。

2 人の食べ物をおすそ分けしないようにしましょう。

人の食べ物は「百害あって一利なし」です。味付けが濃く塩分が高い、カロリーが高い、普段の動物用のお食事を取らなくなる、などの弊害があります。さらに尿石症などの原因になりやすく、膀胱炎や腎・尿管・膀胱結石により排尿に関するトラブルが起こります。尿管や膀胱の石を取り除く手術は、痛みを伴い動物にとっても負担になります。

3 中高年の5, 6歳になりましたら毎年健康診断を受けましょう。

「がん」の発生率は6歳を境にして増加傾向にあります。とくに慢性的な病気がありましたら半年に1回を目安に検診を受けましょう。なんとなく。。。という症状も実は見逃せないサインの場合があります。少し痩せたような気がする、食欲が落ちたのは暑さのせいかしら、散歩に行きたがらない、毛がパサつく、など様々なことが初期症状としてみられることが少なくありません。動物の1年は、人間の4年に相当します。半年は2年にあたりますので偶然に見つけた腫瘍を半年間経過をみることは、2年間無治療のまま過ごすのと同じになってしまいます。

○ ご家庭で出来るチェック

- ・ 体の表面やお腹の皮膚をゆっくり撫でながら、しこりがないか、毛の状態を観察しましょう。
- ・ 耳・眼・口のなかに、できものがないか、炎症はないか、見てみましょう。
- ・ 水を飲む量がかかなり多い、体重が落ちた、などの症状はないですか。
- ・ 深い咳をして、なかなか止まらないことはないでしょうか。
- ・ 時々吐いていたが、頻繁になった。便が柔らかく下痢が止まらないなど。

もっと早く病院に行っておけば、と後々に思うことのないように、毎年誕生日の月に健康診断をするなどお決まりごとをつくってみてはいかがでしょうか。病気は早期発見と早期治療が何よりです。慢性的な症状の中には、ホルモン病などの血液検査が必要なことがあります。

長寿社会の日本では、ペットも長生きするようになりました。健康で長生きできるのが何よりですが、病気になっても病気と寄り添いながら日々を快適に過ごすことは難しいことではなくなりました。お薬を飲みながらも、毎日飼い主様とお散歩に出かけたり、お声をかけて対話することが、彼らにとっての楽しみであり、嬉しいことなのです。近年多くなりました老犬の介護も大切な在宅ケアのひとつですので、どうぞご相談くださいませ。

動物の健康や病気に携わる立場の私たちは、皆さまの大切なご家族の一員である伴侶動物がより長く健やかに過せますようにお手伝いをさせていただきます。病気に寄り添い、痛みや苦痛を柔らげて心に寄り添うような動物医療を提供していきたいと存じます。生活のいろいろな場面やケースにつきまして、どうぞお気軽にご相談ください。



うつのみやペットクリニック

321-0925

栃木県宇都宮市東築瀬 1-28-21

TEL・FAX 028-616-6088

URL. <http://u-pet.jp>

院長 浅井 洋子

